令和４年度　中央区立明石小学校　外部評価報告書

評価委員：守本委員　石井委員　中川委員　箱守委員　牛嶋委員　桑原委員　須田委員
矢田委員　渡辺委員　岩上委員

評価時期　　令和５年３月３日

１　重点目標の評価

【重点目標１「確かな学力の定着・向上」について】

○タブレット端末の活用については、有効だった活用の仕方を教員間で共有するとともに、今後も、指導技術を磨き授業改善に取り組んでいく必要がある。

○「分かる、できる、楽しい」を実感できる授業の実践については、日ごろの学校の授業づくりの成果が表れている。改善を要するとの回答もあることから貴重な意見として受け止め、今後も改善に向けて研鑽してほしい。

【重点目標２「豊かな心の育成」について】

○明石小の児童は挨拶を進んで行っているという話もいただけた。学校の挨拶指導は成果をあげているといえる。今後は、学校外の情報も集め、児童の様子を把握すると共に、家庭と連携を図り学校外でも挨拶の習慣化に向けて学校全体で取り組んでいく必要がある。

○児童の規範意識や教師の言葉遣いなどは、保護者・教員ともに肯定的な評価が高い。豊かな心の育成に向けて日ごろの成果が表れている。今後も、組織的に取り組んでいく。

【重点目標３「健康・安全教育の充実」について】

○コロナ禍においても、学校をあげて体力向上に取り組んでいる。これらの取組に対して成果と課題をはっきりさせ、改善させたい。今後は、児童数増加に伴う活動のあり方や場所といった課題に対応を考えていく必要がある。

○安全指導や安全教育は高い評価を得ている。この結果に安心せず、今後も危機管理意識を高くもって安全指導を行ってほしい。

２　今後の改善に向けた意見

○ＩＣＴ機器の活用については、連絡ツールから始まって、様々な活用の仕方の工夫がされてきている。今後はタブレット端末の活用をどのように定着させていくか、児童・教師・保護者にとってよりよい活用を探っていってほしい。

○アフターコロナ禍の時代になっていくことが予想される中、コロナ禍前に戻そうとするのではなく、この３年間で何が良かったのか、どこが課題なのかをしっかりと捉え直し、新しい学校様式をつくっていこうという姿勢で、今後の学校教育に望んでほしい。

３　その他の意見

○世間では不登校が増加しているという話を聞くが、様々な支援システムがあることや、子どもたちの悩みや不安に寄り添い話を聞きたいと思っている大人が身近にいることを知ってほしい。

○小学校や幼稚園での楽しい思い出をたくさんつくり、大人になってからも同窓会に行きたいと思ってもらえるような場になることを願っている。

○この数年間で、システムの活用が進み、学校やＰＴＡ活動、放課後の課外活動でも取り入れられている。保護者も上手く使いこなしていき、苦手意識を変えていくことが必要だ。

○今後、コロナ禍の制限が緩和されていく中で、地域の行事や学校行事をどのように進めていったらいいか、地域・学校・ＰＴＡ等が、一緒に考えを出し合っていくことが大切だ。それぞれの立場で、様々な角度から、意見を出し合い、より魅力的な学校づくりに関わっていきたいと考えている。